



「笑顔とつながり」

永田台

サステイナブルスクール

No.572 7月号
横浜市立永田台小学校
TEL (714) 4277
令和5年6月30日



進んであいさつ
笑顔あふれる
住みよいまちに

想像することを楽しむ

校長 松本 久美子

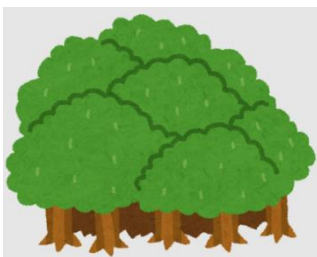
ついこの間運動会が終わったと思っていたら、もう7月になってしまいました。そしてもうすぐ夏休みに入ります。

私の子どもの頃の夏休みの思い出といえば、読書感想文との闘いです。私は、読んだ本の感想を原稿用紙に書くことがとても苦痛でした。私がなかなか感想文を書かないので、横から母親がとやかく口を出すため、自分の思ったことが素直に文章にできなかったことをよく覚えています。夏休みの読書に限らず、「本を読んだら感想文を書くのは当たり前」と母親は思っていたので、本を読んだら感想文がセットになってやってくるのを恐れた私は、一時期、親の前で本を読むことをしないうになりました。



小学校を卒業すると、母親からの感想文攻撃がなくなったので、私は自由に本を読むようになりました。同じ作者の本を続けて読んだり、同じ分野の本を選んで読んだりして、それこそ読書を楽しむようになりました。

本を読むことの楽しさは、その本の中の世界を想像することにあると思います。物語に雄大な自然が出てきたら、たくさんのおいしい空気や清らかな水に触れている自分を想像します。素敵な男性が登場したら、自分の好きな俳優を思い浮かべてドキドキしながら会話する自分を思い浮かべます。映像で見ってしまうとその場面は1通りしかありませんが、読書から想像する世界は何通りにも姿を変えることができます。そして、その世界に自分が入り込んで、あたかも同じことを経験している気持ちになります。自分の人生は一度きりで、何通りもの生き方をすることは難しいですが、本を読んで想像した中にいる自分は様々な人生を歩むことができます。魔法使いにもなれますし、探偵にもなれます、無敵のヒーローにだってなれます。



今考えれば、その想像した情景や登場人物（その世界にいる自分）の心の内側を自分の言葉で書き記せば、それで感想文の原型になったのだと思います。（当時はそんなことを思いもしませんでした）

長い夏休み、永田台小学校の子どもたちも読書によって想像することを楽しみ、頭の中でいろいろな人生を体験してほしいと思います。